

令和3年度 兵庫県立鳴尾高等学校 学校評価

1 教育方針

<p>校訓 「自律 創造」</p> <p>(1) 自己に打ち克つ厳しさと豊かな創造性を培い、広い視野に立つ教養豊かな人材を育成する。</p> <p>(2) 生涯を通じて学ぶことを楽しみ、自己を教育し続ける強い意志を持ち、21世紀に生きる人材を育成する。</p> <p>(3) 他を思いやる心の豊かさを持ち、国際性豊かな人材を育成する。</p>

2 学校経営の重点

<p>本校の伝統である文武両道の気風を生かしつつ、「自律・創造」の校訓に基づき、自己に打ち克つ厳しさと豊かな創造性や教養を備えた、思いやりのある心優しい人材を輩出することを学校経営の中心に置く。</p> <p>さらに、命を大切に、さまざまな困難を乗り越え、他を思いやる豊かな心を培うとともに、グローバルな視点に立った共生・共存の心を育む。</p>

3 学校自己評価

領域	項目	評価
学校運営	学校から保護者や地域への情報発信は、学校のホームページや保護者向け文書、学年通信、学校案内等を通じて適切に行われた。	A
	家庭との連携は良くとれた。	B+
	学校評議委員制度を活用した学校運営を行った。	B
	特別活動や生徒会活動等を通して、地域との連帯・地域への貢献ができた。	B
	地域の中学生や保護者に対して、本校の教育について情報を発信し、理解が得られた。	B
	生徒心得の点検や見直しを行い、その意義や内容について生徒や保護者に対して説明した。	B
	生徒指導は、申し合わせ事項に従い温度差のない指導した。	B
	生徒一人一人の内面理解に努めながら、互いに心の通じ合う人間関係を築けてた。	B
	生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立について指導した。	B+
	ホームルームは、年間ホームルームを計画作成し、生徒指導部で総括し、成果を上げた。	B
	部活動は、活動の活性化、学業と両立に向けて指導した。	B+
	生徒会は、活動内容の充実、生徒の主体的な活動を支援した。	B
	進路指導は、進路指導部と各学年が連携し、組織的に指導した。	B
	進路指導は、キャリア教育の視点も導入した3年間の進路指導計画を作成し、組織的継続的に実施した。	B
	校内研修や、校外の研修会等への参加も含めて、自身の資質向上のための研修に努めた。	B
	外部からの不審者侵入、大地震等の大災害等に対する危機管理体制を推進した。	B
	家庭、地域、関係機関と連携した危機管理体制を推進した。	B
	教職員は、その能力、適正が活かされるよう、適切に配置された。	B-
	各分掌ごとの校務の分担を明確にし、教職員が協働意識を持ち、組織的、計画的に取り組んだ。	B-
	各部、学年、各会議・委員会は、機能的、効率的に連携しながら運営した。	B-
勤務時間は、「ノー残業デー」、「ノー部活デー」等への取組等、適切に行った。	C+	
職員、生徒、保護者など、全ての人に対して人権尊重の精神を忘れず、適切な接遇をした。	B	
服務規律、プライバシー、著作権の保護など、法令遵守の精神で取り組んだ。	B+	
新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に行った。	B+	
職場環境づくりのため、新型コロナウイルス感染症対策を適切に行った。	B	
教育課程	教科会議などを中心に体験的な学習、問題解決的な学習の指導方法を研究し実施した。	B-
	生徒の基礎基本の定着、学力向上のために、授業研究、指導方法研究を行い、授業改善、教科基準の改善に努めた。	B+
	授業の開始、終了時刻を守った。	A
	総合的な学習の時間は各学年、指導計画に基づき、十分な成果を上げた。	B
	総合的な学習の時間は、あり方や内容を検証し、見直し作業を進めた。	B+
	評価は、定期考査の得点だけでなく、各教科で評価基準を定め、それに基づいて行った。	B+
	生徒の質問や発言に対して適切に対応した。	A
	生徒の視点に立った授業改善を意識し、実践した。	B+
	授業の難易度や進度は適切である。	B+
	小テストや週末課題等を通して、生徒の学習意欲を高め学力の定着と向上に努めた。	B+
	英語、数学等で習熟度別授業や少人数授業を有効に活用し、指導した。	B+
	学校行事は、実施時期や内容等について検証し、精選のための検討を行った。	B
課題教育	心肺蘇生法、AED等の応急処置の講習を実施し、緊急時の対策や体制の整備を図った。	B+
	管理している教室等について日常点検を怠らず、施設、設備の安全を確保した。	B+
	生徒一人一人の心身の健康状態について、適切な健康管理、保健指導を行った。	B+
	人権教育は、3年間を見通し計画的に実施した。	B
	各類型は、進路実現も含めて十分に教育成果を達成した。	B+
	国際文化情報学科は、授業内容等をより深化させ、学科の特色化を図った。	B+
	総合人間類型は、授業内容等をより深化させ、類型の特色化を図った。	B+
	教育課程は、教育環境の変化に対応すべく見直しを行った。	B

類型や科目選択のガイダンスは、適切な時期に効果的に行った。	B +
高大連携は、その推進に向けて具体的な取組を行った。	B
国際理解教育は、その推進に向けて具体的な取組を行った。	B
教育相談は、キャンパス・カウンセラー、特別支援教育コーディネーターと連携し、その充実を図った。	B +
校内の美化に向け、日々の清掃活動において、生徒の指導に努めた。	B +
図書室は、利用の促進を図り、各教科の指導等で効果的に利用している。	B

A=4.5, B+=4.4~4.0, B=3.9~3.5, B-=3.4~3.0, C+=2.9~2.5

4 学校関係者評価

学校の教育活動全般について□

○コロナ禍の中、学校はよくやってくれている。

○感染対策、行事の検討など学校側にとっては本当に大変なことばかりだが、子どもたちが落ち着いて安全に学校生活を送れる環境を作っていただけだ。

○鳴尾高校の光るもの(特長)は何かを問いつけることが大切。

○「やるべきときには精一杯がんばる」のは、鳴尾高校の生徒の本当によいとこだと思う。

○家庭との協力をよりいっそう深くしてほしい。

○1年間生徒の様子、学校の様子や先生の取り組みを見ることができた。コロナで色々と行事が中止になり、生徒は友達、クラスメイトとのコミュニケーションの取り方、団結など不足しないか、思い出に残ることが少ないと協調性が欠けるのではないかなど、色々考えた。学校の生徒の様子を見ると、挨拶もある、友達と笑い合っている、勉強はしっかり静かに寝ずにできているのを見て安心した。

○コロナ禍で、あるいはウクライナ戦争などで、海外で活躍することや海外に居住することに消極的になっている若者が多いのではないかな？ 国際文化情報学科が2年連続定員割れになったのも、その辺りの要因があるのではないかな？ 卒業生で海外で活躍している人も多いと思うので、そういう人のビデオメッセージなどを在校生やオープンキャンパスに来た中学生にDVDやホームページで紹介したらどうか？

○「時間を守る」「学校からの手紙を保護者に渡す」「人に迷惑をかけない」これは躰の問題。小学校1年生のときから習慣づけることが必要。この卒業生は高校卒業と同時に成人となる。この3つのことは社会人としての最低限のルールだから、小さいときから躰けてほしい。

学校行事について

○学校の近くを通ってもコロナ以前のような元気な声が聞こえない。学校へ来たときも、以前は必ず声を出して「こんにちは」「さようなら」といってくれた生徒たちが黙って通り過ぎる。中学校でも同じ。体育大会や鳴高祭なども制約が多く、エネルギーを発散させる場が少なかったのでは？ 鳴高祭の3年生の演劇は一生の思い出になっているので、今年度実施できて良かった。

○今年度は文化祭ができてよかった。行事でのつながりは授業とは違う大切さがある。

○80周年記念式典などに多額の資金を使わずに、困っている生徒に奨学金など設置してはどうか？ 同窓会のホームページがあるのだから、樟友会会報をなくしてもよいのではないかな？ ホームページを充実させて、それで会費も振り込みできるようにしたらどうかと思う。

○オーストラリア研修はコロナ終息後再開を目指していただきたい。

防犯体制について

○一度学校に不審者が入ったと聞いたときは驚いた。学校に来るとき校門が全開のことがあり、防犯としては危ないとは思っていた。高校なので警備員は難しいけれど、防犯カメラはやっぱりあってもいいかなと思う。

BYOD・ICT化について

○小中学校の子どもは1人1台パソコンを貸与されていてコロナ感染で学級閉鎖になっても学活や授業をオンラインでできるようになってきている。そういう点で高校は遅れていると思う。

○BYODにおけるPC導入について、初期設定などで先生方の負担が増えないような方法が必要だと思う。

○PCの故障や不具合が生じたときの対応で、相談窓口の周知や修理期間中の対策・代替品の貸与や個人スマホの使用などの対応が必要ではないかな。